

コロナに負けない！

コロナ疲れ一緒に解決 子育ての悩みや不安 すぐ相談を

相談に来た人に寄り添いながら、状況に応じたアドバイスを行う岡田さん



新型コロナウイルス対策の外出自粛などで、子育てをしている保護者に大きな悩みや不安が生まれました。市には、皆さんからの切実な相談が寄せられ、例年に比べて件数も増えています。こども子育てサポートセンターの保健師、岡田萌花さんに聞きました。

自粛がもたらした影響

コロナの中での子育てが、保護者にとっても子どもにとっても大きな負担になっていることを強く感じました。多かったのは、施設などが全て閉館している、どこにも遊びに行けないという相談です。家にずっといるため、かんしゃくがひどくなった子どもも多いんです。乳幼児健診に行くのが不安といった声や、妊婦からは里帰りできない

などの相談も。中には、家でずっと子どもと2人きりでいることがつらいと、涙ながらに相談される人もいました。

1人で抱え込まない

外で子どもを遊ばせて、それからお昼寝といったような生活リズムは、コロナで大きく変化。感染防止のため、保育園の登園もできるだけ控えなければならなくなりました。県をまたいだ移動ができず、県外にいる身内の手助けも受けられない状況です。

問題になるのは「孤独感」や「孤立」なんです。きちんと子育てをやるつもりという保護者ほどこで一人で問題を抱えてしまいがち。だから少しでも悩みがあったり孤独を感じたりしたら、私たちこども子育てサポートセン

ターを頼ってください。相談してもらえれば、いろいろなアドバイスや支援制度などを紹介できます。ため込まずに話してもらって、一緒に解決に向かって考えていければ、保護者も子どもも気持ちが楽になると思っています。

新しい支援も準備

コロナの影響で、里帰りができず、育児支援サービスを利用したときの負担軽減やオンライン相談、症状がない不安な妊

④こども子育てサポートセンター
（☎0942・30・9302、FAX 0942・30・9718）



市ホームページ「母子保健」へ詳しくはQRコード

ゆったり子育て相談会

子どもの身体測定を行い、保健師や栄養士などが子育てや食事、健康などに関する相談にお応えします。

【対象】市内に住む就学前までの子ども
【会場】えーるピアク留米、南部・田主丸保健センター、コスモすまいる北野、城島げんきかん、城島子育て支援センター、三潯生涯学習センター
【参加方法】相談会の14日前から電話で申し込み。祝・休日のときは翌営業日。定員になり次第締め切り。参加するときはマスクを着用してください。各会場でも令和3年3月まで実施予定です。詳しい日程や連絡先は市ホームページで確認してください
④こども子育てサポートセンター
（☎0942・30・9302、FAX 0942・30・9718）



市ホームページ「出産後の教室・相談」へ

コロナに負けない！

市民向け新型コロナ各種支援制度 申請漏れに注意 最新情報の確認を

8月18日(火)までに申請を
申請期限は8月18日(火)（消印有効）です。世帯主で申請書をなくした、申請書類が届いていない場合はコールセンターに連絡を。申請していない世帯宛てに、7月中旬に申請の案内を送付しています。申請期限を過ぎ

ると給付金を受け取れません。早めに提出してください。
④特別定額給付金コールセンター
（☎0942・30・9757、FAX 0942・30・9752）

影響で、所得が国民年金保険料免除基準相当に減少することが見込まれる人です。全額免除に該当しない場合でも納付猶予や一部免除になることがあります。

テレワーク導入補助金
市内に事業所がある中小企業に、テレワークなどを導入、活用する費用として、補助率4分の3までで最大30万円補助します。申請受付は10月30日(金)までです。

◆ ◆ ◆
免除後10年以内であれば追納が可能。追納をしなければ、将来受け取る老齢基礎年金が少なくなるので注意してください。
④医療・年金課（☎0942・30・9032、FAX 0942・30・9107）



再案内はこの封筒で届きます。必ず開封確認を

国民年金保険料の納付が難しくなった人は免除申請ができます。対象は2月以降にコロナの



市ホームページ「新型コロナ支援」へ詳しくはQRコード

地域で頑張る皆さんにエールを送ろう なるべく今までの生活を意識

新型コロナウイルスで生活が変わっています。奮闘する皆さんにインタビューしました。



「指導員の願いは子どもたちの幸せなんです」と話す堀辺さん

新型コロナウイルスの感染防止のため小学校が休校となりました。そのような中でも学童保育所は継続して開所。以前から避難訓練やインフルエンザの感染予防などはしていましたが、コロナ対策は何から手を付けたら良いのかが分からず、戸惑うことばかりでした。まずは環境を整えようとマスクや消毒液を補充。子どもたちに状況を理解してもらうために、紙芝居で手洗いの大切さなどを説明をしました。いろんな学年の子どもが一緒にいるので、子どもたち同士で教え合いながら、感染防止の意識を高めました。

中止になった行事もありましたが、できる限り子どもたちには体を動かしてもらって、普段と同じ生活を送るようにしています。

地域のさまざまな団体などからマスクやお茶、文具などを寄贈してもらい、改めて地域の皆さんの温かさを感じました。

指導員たちは第2波に備えて、定期的な消毒や感染発生時のシミュレーション、自主研修などを行っています。引き続き緊張感を持って対策を行いながら、子どもたちの育成支援に努めていきます。